821　在伯林中央大学学員の会合

〔『法学新報』第34巻10（393）号　大正13年10月8日〕

○在伯林中央大学学員の会合　中央大学学員全権大使本多熊一郎氏を始めとし柴田甲四郎、須磨彌吉郎、中村武、舛（升）本重夫、天野徳也等の諸氏は欧州にあり本多大使は曩に墺国に駐劄せられ須磨氏はロンドン日本大使館に在勤、柴田氏はゲッチンゲン及伯林に、中村氏はライプチツヒに又天野氏は巴里に各学ひつつあり何れも各地に散在して相邂逅するの機会なかりしか昨春須磨書記官先つ伯林に転任し次て本多大使亦同地に赴任せられ柴田氏は三月巴里に赴き六月中旬迄天野氏と与に研学に従事したるか六月初旬母校より新に留学されたる舛（升）本氏の巴里に来著を幸ひ三名相会して一夕歓談を恣にし舛（升）本氏は同月十四日、天野、柴田の両氏は十五日共に伯林に向け出発したり一方中村氏はライプチッヒを引上けて亦伯林に来り茲に期せすして同人相集まるの好機会を得たり仍て某日を卜し大使に請ふて記念撮影を官邸に於て試みたる後大使より鄭重なる饗応に与り互に快談に耽り或は政論あり或は学術上の議論あり或は各国人情風俗の異同弁あり或は横田司法大

臣、林次官を始めとし母校出身の人物月旦も出て談笑湧くか如く其一同の別を惜みて退散したるは暮色蒼然たる頃にして美緑滴る「チヤガルテン」の風光は更に一段の清気を加ふ唯夫れ人世は常に意の如くならざるものか斯く相逢へる吾同人は復た忽ち東西に離散することと為り須磨、柴田の両氏は七月二十一日漢堡発東洋汽船会社「ロンドン」丸にて帰朝の途に就き中村氏は英仏見学の為め七月初旬ロンドンに赴き約一个月にして巴里に入り夫れより帰朝の筈、須磨氏は外務本省附と為るへく多年研究に没頭したる柴田中村両氏は其効空しからす目出度母校に帰らるることなれは遠からすして其深遠なる学殖を以て我学界に貢献すること、なるへし同人は先つ中村氏をツオール駅頭に送り今や舛(升)本天野の両氏は柴田須磨両君を見送り旁々七月十八日漢堡に見学を試みたる次第なり吾人は切に各位の海路平穏を祈りて已ます（大正十三年七月二十二日伯林シエーネベルクに於て天野報）